

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 平安女学院中学校高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒602-8013
京都府 京都市 上京区 烏丸通下立売 西入ル

E-mail sato@heian.ac.jp
Website http://www.jh.heian.ac.jp/

幼児児童生徒数 男子 名 女子 550 名 合計 550 名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(平安女学院中学校高等学校)

当校は「知性を広げ、望みを高くし、感受性を豊かにし、そして神を知らせる」という建学の精神の言葉をキリスト教教育の根幹においています。

ESDの内容を「いのちを大切にす教育と国際的な人権感覚や平和への希求」と捉え、ESDの実践を通して「女性の生きかたや社会進出、平和で安全な社会を作るための意識向上」を育成目標としました。

具体的には、「いのちと尊厳」、「共生社会の形成」、「人権と平和」を柱に、

- ①食育に係わる授業、東日本大震災被災地応援実行委員会のボランティア活動
- ②世界的な貧困問題やジェンダーの問題に触れる授業や施設見学
- ③オーストラリアや台湾からの生徒と学校間交流、国際理解に係わる講演
- ④難民問題や原爆投下の体験から非人道性を認識し、どうすれば平和を構築できるか討議する授業を行った。

①食育に係わる授業、東日本大震災被災地応援実行委員会のボランティア活動

中学1年生の総合的な学習の時間に、「食といのち」をテーマにした授業を展開しています。自分の好きな食べ物を選び、どのようにその材料が作られ、どのような歴史をもっているのか調べ学習をさせ、発表させています。また年に4回、滋賀県の高島で農業実習を行っています。田植えや野菜の収穫を経験することで食のありがたさを学び、壁新聞を作成します。ボランティア活動としては、東日本大震災被災地応援実行委員会の活動を7年続けています。あの日を忘れないために毎月「11円募金」を校門前で行い、その募金を気仙沼市の社会福祉協議会の協力を経て、必要とされる方々に物資と手紙を送っています。キャンペーンとして地域のお祭りや、京都府主催の「あす KYO フェスタ」にも参加しました。そこでは東北の産品を販売したり、被災地の現状を知ってもらう活動をしています。

②世界的な貧困問題やジェンダーの問題に触れる授業や施設見学

中学2年生の総合的な学習の時間に「世界寺子屋運動」を紹介し、リーフレット作成を指導してきました。また校内で書き損じはがきの回収協力を依頼し、世界の貧困に悩む人々に対しできることを積極的にすすめています。またどんな職業につきたいか考えるモデルとして、女性の視点で活動しているマララ・ユスフザイを紹介したり、外部講師を招いて授業を展開しました。

③オーストラリアや台湾からの生徒と学校間交流、国際理解に係わる講演

毎年オーストラリアからの姉妹校が来日するので、学校交流をすすめています。同年代の生徒同士で外国語や外国の文化に直に触れることで、コミュニケーションの大切さや日本文化を理解してもらうきっかけになっています。台湾の学校とは修学旅行を通して交流をもつことができ、1日だけですが、相互に中高生の授業にも参加できました。高校3年生の総合学習の時間では、ルワンダに JICA 派遣員として赴任した方に講義をして頂き、体験談から遠いアフリカの現状を知ることができました。

④難民問題や原爆投下の体験から非人道性を認識し、どうすれば平和を構築できるか討議する授業を行った。

高校3年生の総合的な学習の時間に、アフリカ各地で起こった内戦やシリア問題をテーマに映画を鑑賞し、グループ発表やディスカッションをさせました。平和を壊したきっかけとしての戦争や、原子力発電所の事故にも授業内で触れました。本年の人権学習会では、被爆体験から平和を唱える近藤さんから貴重なお話をして頂き、学校全体で平和のありがたさを知る機会を得ることができました。

① 中学1年農業実習



② 外部講師の授業



③ 姉妹校交流（異文化理解）



④ 人権学習会（原爆と平和）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ 情報を知るツールとして「ユネスコスクール公式ウェブサイト」・ ESDを知る冊子として「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育 (ESD)」 ・ 授業実践として使用した教材として (高校) 「参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック」 「このTシャツはどこからくるの?」「おいしいチョコレートの真実」 「シミュレーション教材 ひょうたん島問題」 「JICA 発行 MUNDI (ムンディ)」 など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての指導計画のうち、主に学校行事（農業自習や姉妹校交流、人権学習会）と総合的な学習の時間において意識的にテーマをおいて指導しています。中学校の指導体制としては「食といのち」「なりたい自分（女性としての職業観）」「平和学習」を学年のテーマにしています。高校では「いのちの尊厳」「共生社会の実現」「平和と人権」を根幹において、個人と社会のあり方を考えながら意見を発信できる力を養っています。内容としては国際理解や社会問題に関する領域に重点をおいています。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で取り組めているのは、書き損じはがき回収運動や、人権学習会に関わる事前事後の活動があります。継続的な活動に結びつけるためには、教員の ESD に関連する取り組みに個々の差があるのが現状です。原因としては ESD の分野が幅広いため、包括的に教科間でプロジェクトが作りにくいことがあるかもしれません。他のユネスコスクールとのつながりのために、ユネスコ担当教員が少しずつ実践例を作っています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールの掲げる教育領域を全て兼ね備えるのは至難ですが、学校内の評価（教職員会議での方針・総括）では少しずつ前進に向かっていく。外部評価を考えた場合、ユネスコが関わるイベントや募集に生徒や教員がもっと参加しないとできないと感じます。学校行事や担当者の予定を調整して「ワンワールドフェスティバル」等の国際協力団体の多く絡んだイベントに参加できたら意識も変化すると思う。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動実践として地域との関わりを意識しているのは、3例ある。中学2年生・3年生が学校周辺(京都御所周辺)の史跡や歴史的に趣のあるお店を取材して発表したり、お礼状を書くことで、地域に目を向けた学習を推進している。高校1年生は京都の世界遺産をまわり、フィールドワーク調査をしました。また東日本大震災被災地応援実行委員会の活動は、継続的に東日本沿岸地域の現状を掲示板で校内に知らせたり、手紙や物資を送ってきました。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ASP-Univ-net のつながりが2017年度から京都外国語大学をとおして形成されました。京都府の高校課程のあるユネスコスクール6校が、学校の特色を尊重した交流をしていき、イベントを企画しました。京都府では、勤労感謝の日に東日本大震災の被災地支援イベントを催行しているので、そこで募金活動や地域産品、被災地の現状を知ってもらうため本校からも参加しています。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ASP-net 京都で活動するユネスコスクール6校が11月に上賀茂神社で「和食」をテーマにしたワークショップを展開しました。世界遺産でひらかれるすばらしい環境と他のユネスコスクールの個性に刺激を受けるよい機会となっています。本年は京都外国語大学を訪れた東南アジアの大学生グループとの交流もあり有意義に終えることができました。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

大きく変化をむかえたのは京都で活動している6校とのイベント（上賀茂神社ワークショップ）を2016年度と2017年度で企画できたことです。最初からユネスコの教育理念を詰め込むのではなく、他校の実践を生徒と教員が体験的に理解していくことで、わかりにくい目標を主体的にどうまとめていくか考える機会となりました。参加した生徒の意見や感じ取ったことを活かして2018年度に繋げる予定です。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールとして掘り下げていく内容として、できるだけ生徒主体の授業に変えていくことです。NGO・NPO法人が発行する教材の中に社会領域に限らず、優れたものがあればそれを活用し、外部団体とのつながりを強化していく予定です。できれば海外のユネスコスクールとのつながりをUniv-netの情報と協力をいただいて新しく実践できればと考えます。現在、計画案としているものは以下の通りです。

- （1）東日本大震災（巨大自然災害）を契機とした防災に関する取り組み
- （2）ボランティアマインドの育成・取り組み（ESDパスポートなど）
- （3）第3回ASP-net 京都交流会（上賀茂神社）
- （4）第10回ユネスコスクール全国大会への参加、教員への報告